

医学研究の推進・支援のための実務に特化した URA体制の実現とキャリアパス

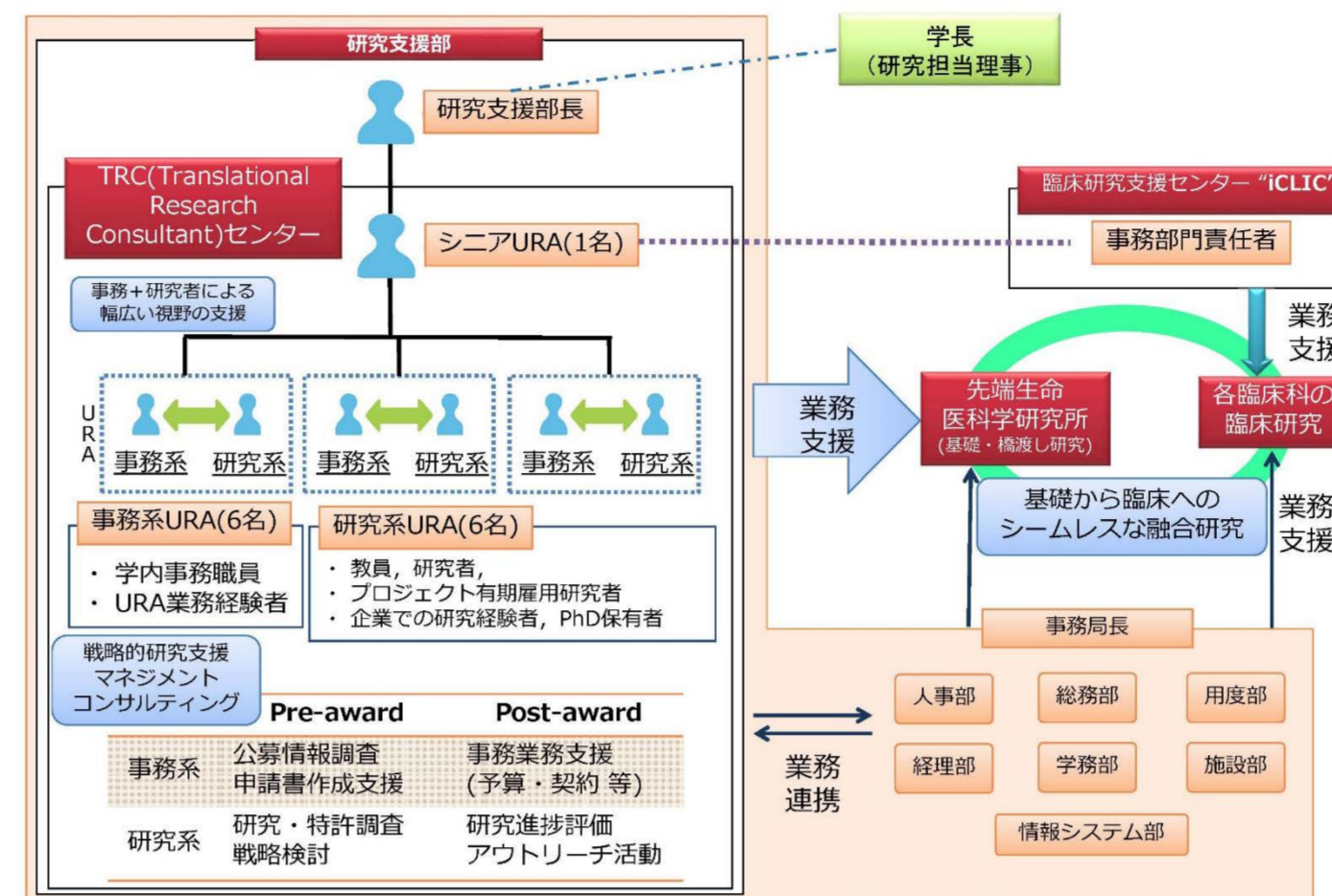
遠藤広唯, 桐谷理, 二宮裕一, 原文夫, 高橋純子, 川村正行, 白石雅美, 佐々木孝寛, 高橋めぐみ, 木下眞, 村垣善浩*

東京女子医科大学 研究支援部

* 東京女子医科大学 先端生命医科学研究所 先端工学外科学分野

URA組織体制の整備構想の進捗状況

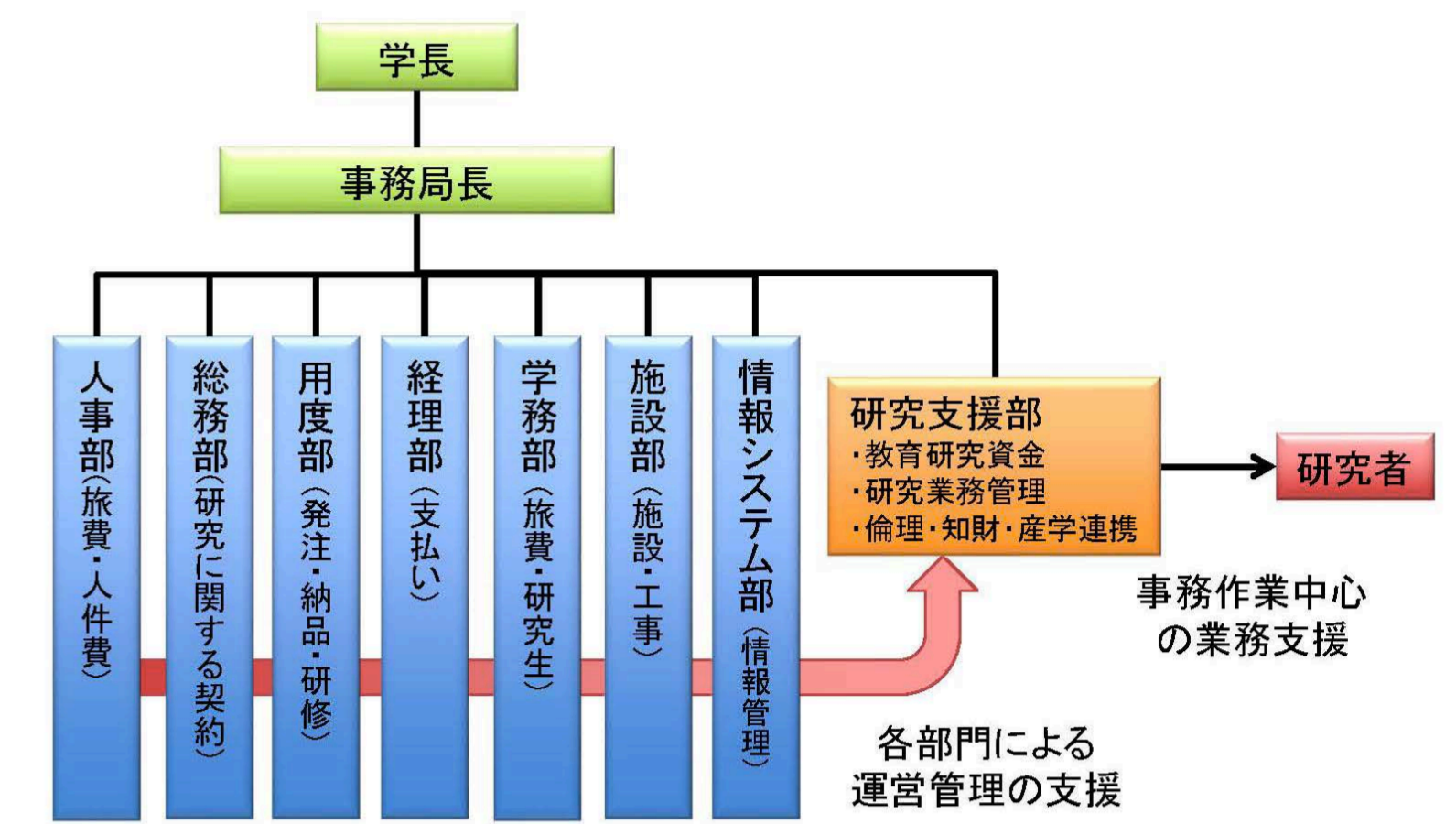
- 1) 研究支援事務の経験を有する「事務系URA」と、研究経験を有する「研究系URA」から構成されるチーム体制を編成。
⇒研究者を支援することにより幅広い視野の支援を可能とし、基礎研究から臨床研究、応用開発、実用化までの戦略的な支援を目指している。
⇒本学研究支援部事務職員を事務系URAとして委嘱。
補助事業で採用の研究系URAは本学の新職種である「リサーチ・アドミニストレーター」として雇用。
◎事務系URA：競争的資金等の研究経費の取扱い、知財・産学連携等の実務に熟達した人材を中心に構成。
◎研究系URA：医学・工学・理学、薬事・倫理/コンプライアンス等、豊富な研究経験を有する人材によって構成、主に研究費の獲得、企業との契約、臨床研究に係る倫理審査、特許・知財管理、研究プロジェクトマネジメント、に係る支援業務に従事。



【図1：目下構築中の研究支援体制】

TRCセンター構想：

従来の関連事務部署はもとより、先端生命医科学研究所、臨床研究支援センター、各臨床科との連携を深化。基礎研究から臨床応用への橋渡しを積極的に支援、最先端の研究成果を効率的かつ円滑に臨床につなげるべく、市場化までを見据えた戦略策定、臨床・技術・ビジネス・関係法規等の多岐に渡るマネジメント業務を展開。



【図2：従来の機内管理体制】

従来の研究支援部：
「教育研究資金」「研究業務管理」「倫理・知財・産学連携」の3部門から構成。pre-awardに相当する申請支援、post-awardに相当する資金管理、研究施設・設備の管理や知財などに関する支援業務を遂行。

- 2) 新時代の医学系大学に相応しいTRC (Translational Research Consultant) センター構想を吟味・検討。
⇒本学に必要な専門的業務の見極め、URAのキャリアパスの整備。

URAの職務環境等整備の進捗状況

本学URA標準業務の策定

東京大学「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備（スキル標準の作成）」事業の動向に留意しつつ、URAの能力開発プログラムの策定に向けた検討

Pre-Award標準業務：

- ①研究動向・産業動向分析、②競争的資金に係る情報収集と学内提供、③学内シーズ情報の収集と分野横断的プロジェクト等の組織支援・調整、④他機関との連携・交流の企画・調整、⑤産学連携・知財/倫理審査対応に係る専門的助言、⑥申請書作成支援、⑦競争的資金獲得支援

Post-Award標準業務：

- ①研究プロジェクトの進捗管理・資金管理支援、②成果報告書/実績報告書作成支援、③広報・アウトリーチ活動、④知的財産等の管理・活用支援、⑤監査対応支援、⑥研究倫理・コンプライアンス対応支援

業務達成目標に係る自己申告書の策定

各URAにとっての「この1年間で担当した業務の難易度・遂行度等」、「URA事業への理解度」、「URAの研究支援業務とは」、「今後取り組みたい業務・企画と行動計画」・・・等の項目によって構成。URA業務の評価の一助とする予定。

項目	内容
研究費の獲得	競争的資金の獲得額
産学連携	企業との契約数
知財管理	特許出願件数
倫理審査	倫理審査通過件数
産学連携	産学連携会議出席回数
その他	

URAシステムの定着・運営の安定化に関する取組状況

URA組織体制の学内認知を高める活動

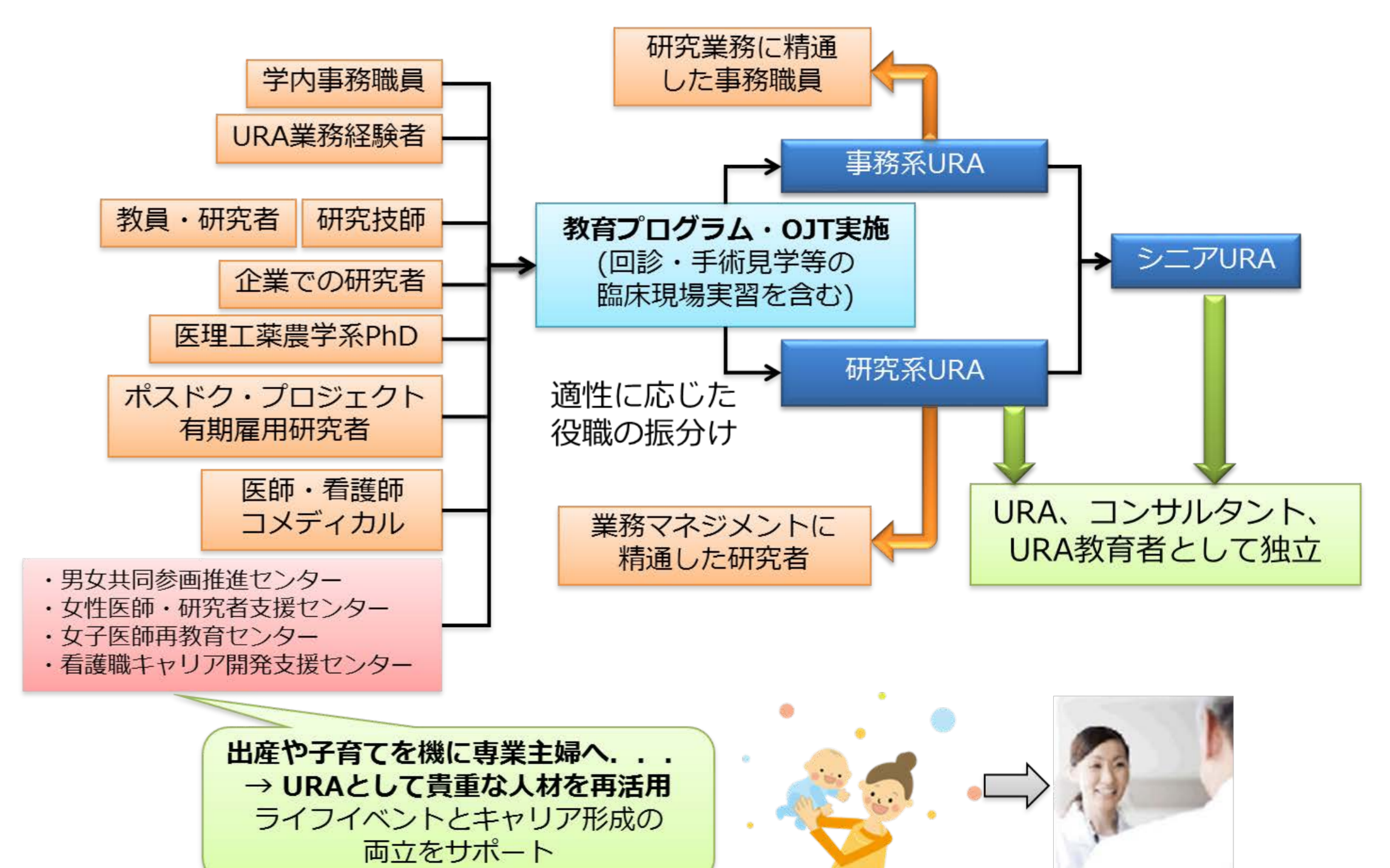
- 2013年7月～11月：本学研究施設の移転計画への貢献：研究系URAが各病院診療科の研究室を訪問。本学研究者らに研究環境に係る要望等のヒアリングを含む実態調査を実施の上、詳細なデータを作成。これらのデータは、現在進行中の研究施設移転計画にも反映されている。
- 2013年10月：「科研費応募支援セミナー」開催。
- 2013年10月：「科研費申請書 書き方のコツとピットフォール」に関する本学URAオリジナル教材を作成の上、学内イントラネットで配布。
- 学内研究者の科研費申請書作成支援実施：研究目的・意義、方法論、倫理・コンプライアンス対応、研究経費・エフォート、業績等の事項に関する助言及び添削を行うことで、専門性の高いレベルでのコンサルティングが実現。
- 2013年10月：本学病院の臨床研究支援センターセミナー協力：URAによる倫理・コンプライアンスに関するレクチャーを実施。
- 2014年1月：「学内研究交流セミナー」の開催支援。本学研究者同士の交流の促進、URAと研究者とのコミュニケーションの活性化に寄与。
- 2014年2月：大学・企業の研究開発、特許出願に関する知財セミナーを企画・開催。



URAキャリアパス形成に向けた検討

- 各URAの適性に依りて、資金管理、契約・知財、倫理・コンプライアンス/薬事法対応等の役割の振分けが完成しつつある。
- 今後は、本学における人事制度の中の数多くの職種の中の専門性等のバランスを考慮し、URA職を新たな職種として位置づけた制度となるよう検討していく予定。
- より幅広い視野から社会に貢献しうる人材輩出も射程に入れた取組みも展開させているところである。具体的には、研究業務に精通した事務・実務系職員、一方で、研究業務マネジメントに精通した研究者の輩出などが挙げられる。
- 将来的には、女性医師、看護師、研究者等のライフイベントとキャリア形成の両立をサポートしうるシステムの可能性についても検討。

URAのキャリアパス



出産や子育てを機に専業主婦へ...
→ URAとして貴重な人材を再活用
ライフイベントとキャリア形成の
両立をサポート

